



定住外国人子ども奨学金 News Letter

※定住外国人子ども奨学金ニュースレターWeb版は個人情報などの都合上、内容を一部変更しています。

第 16 期奨学生は 4 名となりました

定住外国人子ども奨学金は第 16 期の奨学生を迎えることとなりました。16 名の応募があり、11 名が書類選考を通過し、面接選考にのぞみました。その結果、4 名が奨学生として採用されました。新奨学生のルーツは、インドネシア 1 名、中国 1 名、ネパール 2 名です。インドネシアとネパールのルーツをもつ奨学生の採用は初めてとなります。新奨学生のジェンダーは女性と男性 2 名ずつ、進学先の高校は全日制や定時制、公立や私立と各様でした。新奨学生 4 名は、奨学金の必要性和高校進学を自分の言葉でしっかりと説明していました。また、外国にルーツをもつ子どもたちのロールモデルとしての、いわばよき先輩としての役割を担うことについては、高校生活と両立しながら、自身ができることを遂行しようという確固たる意思が示されました。

面接選考の際に難しいのが渡日年数の差をどう考慮するのかという点です。面接は日本語で行いますので、渡日年数の長短が面接時の受け答えのスピードや語彙量の多寡に影響します。しかしながら、流暢な受け答えができれば高い得点が与えられるというわけではありません。応募者が質問の意味を聞き取れない場合には、私たち面接担当側が問い方を何度もかえて質問をし直します。応募者の応答がわかりにくいときは、「あなたの言いたいことはこういうことですか」といくつかのバリエーションを示して確認します。面接担当者側は、応募者が思考していることを把握し、評価するように努めました。また、中学校での成績も選考にあたって重要な判断材料となりますが、渡日年数の長短は成績の良し悪しに直結します。そこで、渡日年数の短い応募者に対しては、苦手な科目についてどのような努力をしたのか、得意な科目をどのように伸ばしていったのかといった点について説明を求め、高校生になってからの伸びしろを考慮するようにしました。こうしたプロセスを経ることで、渡日年数の長短が選考の判断基準に与える影響をある程度緩和できるのではないかと考えています。渡日年数の違いを前提とした公平な選考をどのように実現するのか、その方法については今後も検討すべき課題の一つでしょう。

最後に、今年度は例年より 1 名増え、4 名の奨学生を採択できたという喜ばしいニュースを改めてご報告します。篤志家からの遺贈によるご寄付を活用することで、4 人目の採用枠を設けることができました。現在の日本社会できわめて不利な立場におかれていながら、公的な支援の乏しい子どもたちに対して、思いを寄せてくださった故人のご遺志に心よりの敬意と感謝を申し上げます。

なお、今回の選考は、樋口実行委員長を含む実行委員会メンバー 4 人が担当しました。まず実行委員長と副実行委員長が書類選考を行い、次に、委員長と委員 2 人が面接選考を担当しました。

(Y.T.)

奨学生からのメッセージ

K.S.さん(16期生)

1 自己紹介

私の名前はカラル サンジラです。日本にきて2年ぐらいになりました。今こうこう行きます。かぞくは5人です。私はネパール人です。学校の名前はH 高等学校です。

私はネパールからきたとき日本語ぜんぜんわかりませんでした。日本にきて日本語をがんばりました。まだ日本語上手になってないので、まだがんばりたいと思います。

私の好きな食べ物ラーメンです。日本にきてラーメンがおいしいことがわかりました。あとぎょうぎとすしもすきです。日本にきていろいろなことを学びました。

私はダンスにきょうみがあります。ときどき家でおどります。

日本語ペラペラになって両親におしえたいです。

2 高校に進学してどのようなことがしたいと考えていますか

高校の生活は中学の生活とはちがいます。

高校でバレーボールをすと思っています。中学で部活とかをやっていないので高校でやるとしています。日本語のかんじとかもがんばりたいと思います。

3 将来の夢

将来の夢はキャビンアテンダントになりたいです。そのために日本語と英語をがんばらないといけないです。だから、これからべんきょうをもっとがんばります。

G.K.さん(16期生)

1 自己紹介

5才のときに中国から来ました。私はお母さんとお父さん、弟と双子の妹の6人家族です。

私は中学校では、整美委員で活動したり、部活では副部長として活動していました。また、私は英語に興味を持っています。3年生のとき、「English festival」という英語の発表会では、他の二人とともに3位という成績をとりました。

また、私は数学にも興味があります。数学は同じ問題でも、たくさんの解き方があったり、解く人によってその問題に対する見方や考え方がちがったりするため、とてもおもしろいと感じます。

高校に入っても、自分の好きなことに向かって頑張っていきたいと思います。

2 高校に進学してどのようなことがしたいと考えていますか

高校では、まず英語をがんばりたいです。英語をつかって、スムーズに会話したりすることができるようにしたいです。また、たくさんの人とコミュニケーションをとりたいと思っています。コミュニケーションをとることで、友人との関係が良くなったり、自分のコミュニケーション力も高まると思うからです。

3 将来の夢

私は将来、翻訳者になりたいです。

そのためには、コミュニケーション能力がとても必要だと思います。だから、たくさんの人とコミュニケーションをとりたいです。

また、「言語」という科目をしっかりとべんきょうをしたいと思っています。

Z.S.さん(16 期生)

1 自己紹介

僕は7人家族の長男です。日本に来たのは 2010 年の 2 才の時です。僕のお父さんのおばあちゃんは日本人です。僕は日本の血を持っています。小学生の頃は、あまり日本語を話せずに過ごしました。いつの間にか自然に覚えてくるのが良かったと自分は思います。

中学校ではリーダーの経験を主に努力して取り組みました。部活動や行事などは、積極的に取り組むことをしました。

2 高校に進学してどのようなことがしたいと考えていますか

僕は〇市の〇高等学校に進学することになりました。この高校では、誰よりも多くの資格を取りたいです(溶せつ、せんぱんなど)。中学生では、バスケ部でフォワードとして試合にでていました。3 ポイントを決める役割をしていました。なので、学校で学んだことをしっかり生かし、努力していきたいです。

3 将来の夢

僕は将来、会社を作りたいと思っています。自分は、互いの文化や生活などを幼少時から知っているし、日本語とインドネシア語を話せるので、会社を作ったら日本の製品をインドネシアに輸出したいと思っています。

B.J.さん(16 期生)

1 自己紹介

私は 15 さいです。ネパールからきました。私のしゅみは写真です。私は将来機械工学士になりたいです。私のちゅうがっこうはすばらしかった。私の家族、いま日本にいます。でも、ネパールもふたりいます。私はきょねん9がつに日本にきた。

私のすきなたべものはももです。

私がいっがっこうの名前は K 高校です。

2 高校に進学してどのようなことがしたいと考えていますか

私のこうこうにはいつときサッカーとバレーボールのどちらでもいいです。

私のこうこうべんきょうとき、しょうらいに機械工学士になりたいです。

3 将来の夢

しょうらいに私はくるまの会社でしごとするつもりです。これはできるようにになりたいです。

K.M.さん(15期生)**『今の社会に最も必要な力を与えてくれた家族』**

私にとって家族はかけがえのないものです。もし私が両親の元に生まれていなければ、今の私は存在しなかったと思います。何度かニュースレターで書いたことがあるのですが、私は香港人の父と日本人の母の間に生まれ、5 歳から 10 年間、香港で暮らしていました。両親の教育方針で、私にはなるべく現地の言語を習得して欲しいという思いから、ローカルの学校に入学しました。外では広東語と中国語と英語、そして家では日本語、という環境で 1 番言語を習得できると言われている幼少期を過ごしました。そのおかげで今私は日本語、広東語、英語、中国語の 4 ヶ国語を話すことができます。

やはり言語はたくさん習得して得しかないと思います。数種類の言語を理解することができることによって、多くの情報を手に入れることができました。例えば世界情勢についてのニュースを日本の視点から見た記事だけではなく、別の国の視点で書かれた記事も読むことができます。それによって、自分の公平・多角的に物事を考える力が養われたと思っています。その上 1 つの出来事について深く知ることができ、知識も蓄えられていきました。

そして私にはもう 1 人大事な家族、弟がいます。弟は 3 歳年下で、私と同じように 4 ヶ国語話すことができます。ただ、私と違うところは、私は日本語が一番得意なのに対して、弟は英語が一番流暢に喋れるのです。そのため、家では私が英語レベルを保てるよう、英語で会話したりしています。弟が日本語でうまく親に物事を伝えることができない時は、私がまず英語で話を聞いて、それを親に通訳することもあります。このように、私の語学力を保ち続けるのに弟はなくてはならない存在なのです。

このような恵まれた環境で育ててくれた両親、そして語学力の保持を手伝ってくれている弟には本当に感謝しています。せっかく 4 ヶ国語を習得したので、今のレベルを保ち続けたいと思っています。そしてこの能力が無駄にならないように、社会に貢献出来たらいいなと思っています。

R.K.さん(15期生)**『頑張っていること』**

高校生になってからはや 1 年が経って友達も沢山でき、勉強や部活動などにも両立して力が入れられるようになって安定した生活ができるようになってきました。そんな中、私は 11 月から生徒会に立候補して生徒会役員として活動してきました。そんな私の生徒会役員としての活動で頑張ってきたことを話していこうと思います。

まず生徒会は 11 月に演説して、無事当選ができました。そこから毎日生徒会内での会議や校則などの見直しなど様々な仕事をこの 3 月まで一生懸命取り組んできました。

主な仕事の内容として例えば、行事などの進行、挨拶運動、またどうしたらみんな行事が楽しめるかとかの様々な企画をしたりしてきました。

特にやりがいを感じたことは 2 つあって、12 月に行ったクリスマス企画と 3 年生の先輩に向けたお祝いのオブジェ考えたのが 1 番印象に残っています。

1 つ目の 12 月に行ったクリスマス企画は、先輩が企画したもので、発泡スチロールで作ったツリーに生徒みんなで今年やり残したことを書いてそれを飾るということをしました。生徒会みんなで発泡スチロールを買いにいってそれを緑色にペイントし、組み立てたのがとても大変で完全下校時間ギリギリまで仕

事していました。でも無事完成して、食堂に掲示したときとても達成感を感じることができ、色んな先生から生徒会の 12 月企画いいね!と褒めて下さってとても嬉しかったです。

2 つめの 3 年生に向けたお祝いのオブジェは、12 月の時と同様、発泡スチロールで作った、大きな卒業アルバムを制作しようと考えました。3 年生の卒業アルバムは赤で薫陶という金色の文字が書かれています。それを大きくしたものを考えました。赤で塗ったり金色で文字を綺麗に仕上げたりとすごく集中力を使う仕事で終わった時はクタクタになりました。他にも先輩達の 1 年生からの時の写真を印刷し飾って映画のエンドロールのように掲示したりとても楽しく頑張りました。完成したものを卒業式の時に飾って色々な人から寄せ書きを書いてもらっていいものを残すことができ達成感を感じました。

そんな目まぐるしい半年が過ぎてもうすぐで高校 2 年生になろうとしています。勉強や部活はもちろんのこと今頑張っている生徒会の仕事も両立して頑張っていきたいと思っています。

L.X.さん(15 期生)

『遠くの風景』

梅の花が満開の季節が訪れ、1 年生の 3 学期が終わろうとしている。1 年間努力してきたものが全て報われたと言っても過言ではないぐらい、私にとっては収穫の多い時期だった。少し日記風になってしまうかもしれないが、ここで 2 月初めの一週間の興奮を書き記したい。

2 月 1 日。11 月末に応募した、「未来の科学者のためのサマーキャンプ」の合格通知メールを開いた瞬間のことは、今も鮮明に覚えている。そのプログラム、は夏休みの間に、デンマークで、同世代の世界各地から科学研究に興味を持つ若者が一週間集まり、先端の技術の講座や実習を楽しむものである。デンマークを拠点に置く製菓の企業によって開催されるらしい。2 月 1 日の朝 5 時。YOU GOT ACCEPTED という 3 単語を見た時に、私は思わず歓声を掲げた。1 月末に全ての合格者にしかメールが届かないので、私は 1 月の後半から毎日タブレットを開くたびドキドキしながらメールをチェックしていた。その時は「世界の若者との競争がやはり厳しすぎる」「果たして世界の同世代の人を見る機会がまた来るのだろうか」とか、色々悩んでいた。しかし正直、自分はもしかしたら受かる、と最後まで信じ続けて疑わなかった。メールの続きを読んでみると、このプログラムの定員は 100 人で、12 カ国にわたって 1500 人を超える者が応募したらしい。この中から選ばれたことは、きっとこれからの私を支える自信になると信じている。

2022 年の最後の日に、私は自分で目標を立てた。毎朝 5 時に起きて、情報オリンピックに備えるためにアルゴリズムの勉強をするという目標だ。2023 年から無事実施できるようになり、それが今へと続いた。

2 月 2 日。学習の成果がわずかでありながらも出た。情報オリンピック女性部門本選の表彰状が届いた。残念ながら日本を代表する世界情報オリンピックの出場者に選ばれなかったが、あと 1 年間勉強を重ねて、もっと深く学びたいと思う。

2 月 3 日は学校で 7 月から取り組み始めたプレ課題研究の最終発表だ。私の場合は 3 人班で、糸状菌の研究についてポスター発表した。1 人が熱を出して、当日一緒に発表することはできなかったが、K 高校の最優秀賞を取ることができました。約半年間の成果が漸く出たと感動した。2 年生でやる課題研究もさらに真剣に向き合いたいと思った。

2 月 4 日。放課後に 4ヶ月間にわたって学校の外国人教師と練習し続けたスピーチが、神戸日米協会

主催の高校生英語暗誦大会で 1 位を取って、そのトロフィーが学校届いた。そのスピーチの後のパーティーでジャッジや同級生など、色々な国際的視野を持った人に出会って、その方達と交流していくうちに、私の視野も広がったように感じた。

2 月 5 日。ROOT プログラムからお知らせが来た。半年間で練り上げた研究課題提案が認められたらしくて、K 大学の電気電子工学を専門とする教授にアドバイザーになっていただけることが決まった。この機会を大切に、私はこれから 1 年間本格的に研究に熱意を注ぐと決意した。

高校に入学した 1 年間で、私は素晴らしい方々にたくさん出会えた。広く日本、そして世界をちらりと見て、年齢はただの数字だと、身に染みて感じる事ができた。同じ世代の人から受けた衝撃は、常に私のモチベーションになっている。すごい才能や能力を持つ先輩方、身の回りの尊敬できる大人たち、自分の分野を深く知るのみならず学問を広く見渡す立派な教授たち。私は果たしてこの人たちのような、中身のある人間になることができるのだろうか。そして最も、巨人の肩に立っているゆえに、私は昔の自分よりも遠く見渡す事ができた。この 1 年間で自分を磨いたからこそ、高みを目指し、さらに広い景色が見えてきた。もっと遠くの風景を見られるようになりたい。もっともっとこの世界を見てみたい。

O.Z.さん(14 期生)

『夏コンクールへの展望』

去年の夏ごろ、わたしが所属している吹奏楽部は吹奏楽西阪神地区大会コンクールで金賞を取ることができました！本番の緊張感やプレッシャーを乗り越え、最高の演奏をすることができたので凄くいい思い出を残せました。

吹奏楽コンクールは、年々レベルが上がっているため、去年金賞を受賞したからといって、今年も同じように勝てるとは限らないと先生から言われたので今年のコンクールへの展望について、私たちはさらに高いレベルの演奏を目指していると思っています。去年受賞したことは、私たちにとって大きな自信となったが、それだけでは満足できません。他の高校の優れた演奏に刺激を受けて更なる高みを目指す必要があります。そのためには、引き続き努力を続ける必要があるのはもちろん、コンクール曲の練習や技術の向上など、様々な面での努力も求められています。

まずは「基礎力の向上」が大事です。それは、楽器のテクニックやリズム感、音程や音色などのことですが、吹奏楽に限らず、どの分野でも基礎力があることが大切だと思っています。そして、基礎力を向上させるためには日々の練習が欠かせません。練習の質を高めるために、個人練習の時間を増やしたり、グループでの意見交換を積極的に行ったりしています。短期的な成果は得られないかもしれませんが、長期的に見れば、必ず成果が現れると信じています！

また、コンクールで良い成績を収めるためには、自分たちの演奏を客観的に評価することも必要です。これは、「自己評価」や「アドバイスの受け入れ」にもつながります。自分たちの演奏を客観的に見つめ直すことで、改善すべき点や課題が見えてくるはずですよ。そして、その課題に向き合い、アドバイスを受け入れることで、より良い演奏ができるようになると思います。

残りの時間は僅か三カ月間です。最後の最後で悔しい気持ちを残さず、金賞を取って、意気揚々と引退できるように頑張っていきたいと思っています！

M.Y.さん(14 期生)**『ドイツの移民と政治的变化について』**

近年、ドイツは多様な社会的・政治的な変化を経験してきました。この作文では、最近のドイツの変化について、「移民」、「政治的な状況」の 2 つの側面から探求します。

<移民>

ドイツは、長い間移民を受け入れる国として知られてきました。しかしながら、近年のドイツの移民政策は、多くの変化を経験しています。

2015年に、ドイツはシリア難民危機に直面しました。その結果、約 120 万人の難民がドイツに入国しました。この移民流入により、ドイツは多文化社会に変化し、社会的な挑戦に直面することになりました。

この移民流入により、ドイツ政府は移民政策を見直す必要があったと考えられます。政府は、難民の定住に対する支援を強化するとともに、難民の受け入れに関する規制を強化しました。また、難民の在留資格の認定に関するプロセスを改善し、合法的な入国を促進する政策を導入しました。

さらに、ドイツ政府は、労働力不足を解消するために、外国人労働者の受け入れにも注力しています。これには、高度な専門知識を持つ外国人労働者の受け入れや、ドイツで教育を受けた外国人学生の就労許可の拡大が含まれます。これらの政策は、ドイツ経済の成長と、人口減少に対処するために重要な役割を果たしています。

しかしながら、移民政策に対するドイツ国内の反発も見られます。特に、極右政党の台頭や、移民に対する偏見や人種差別的な行動が増加しています。これらの問題に対処するために、ドイツ政府は、寛容な社会を促進し、移民に対する偏見を減らすための政策を継続的に推進しています。

総じて、ドイツの移民政策は、変化と挑戦を経験しています。政府は、移民に対する支援を強化し、多文化社会を促進するための取り組みを継続的に進めています。

これにより、ドイツは、グローバルな社会になりました。

<政治的な状況>

最近のドイツは、政治的な変化が見られます。これは、長期にわたって中道右派政党であった Christian Democratic Union (CDU) の支持率の低下や、極右政党 Alternative for Germany (AfD) の支持者の増加などによるものです。

CDUは、長年にわたって、ドイツの政治において主導的な役割を果たしてきました。

しかし、2015年の移民問題や COVID-19パンデミックなどの問題に対する CDU の対応に不満を持つ人々が増えたことで、CDU の支持率が低下しました。また、ドイツの社会民主党 (SPD) は、CDU に代わって政権を獲得し、新しい政権を形成しました。

SPD は、移民や気候変動などの問題に積極的に取り組むことを約束しました。

一方で、AfD は、移民や EU の問題に焦点を当て、CDU や SPD の政策に反対する立場をとっています。AfD は、2017年の連邦議会選挙で 12.6% の得票率を獲得し、連邦議会に進出しました。しかし、AfD は、その主張や発言により批判を受けることが多く、多くのドイツ人からは排斥されています。

このように、ドイツの政治的な状況は、多様性を受け入れる立場をとる SPD や、保守的な立場をとる CDU の支持者の間で分断されています。また、極右政党 AfD の台頭もドイツの政治に新たな問題をもたらしています。

最近のドイツの政治的な変化はドイツが直面する多くの問題に対する解決策を模索する上で、重要な

意味を持っています。これらの問題には移民、気候変動、そしてEUの問題などが含まれます。ドイツ政府は、これら問題に対して取り組み、社会的、政治的な不安定化を防止するために、積極的な措置を取る必要があります。

これらの理由からドイツは第二次世界大戦から多くの影響を受けながらも政治的に成長してきたことがわかります。

M.K.さん(14期生)

『スマートフォンと高校生活について思うこと』

今回私はスマートフォンと高校生活について思うことについて書きたいと思います。なぜこのテーマにしたかというと、中学生の頃、私はスマートフォンを持っていませんでした。その頃と今の生活ではだいぶ変化があったと感じるからです。

まず、一つ目に本を読む時間が減ってしまいました。中学生の頃は学校から帰ると、家でよく本を読んでいた。しかし、今高校生になりスマートフォンを持ったことにより家で本を読む時間が少なくなりました。スマートフォンを使っているとついつい時間を忘れてしまい、気付いたらすぐに1時間くらい経ってしまっています。そこから学校の宿題などをしていると、自然と本を読む時間が無くなってしまいました。私自身、本を読むことは好きなのでこれからは隙間の時間を作って気になった本を読んだり、スマートフォンでも本を読むことが出来るので登下校の時間などで読んだりしたいと思っています。

次に変化があったと感じるところは、勉強時間や集中力についてです。私は中学生の頃から、テストの2週間前くらいから勉強時間を普段よりも増やしていたのですが、高校生になりスマートフォンを使うようになってから勉強していてもスマートフォンが気になってしまい1時間半くらいで集中力が切れてしまうようになってしまいました。スマートフォンを離して置いておくことも試しましたが結局気になってしまうのは一緒なので逆に、集中力が切れたら勉強する教科を変えて勉強を飽きずに出来るようにしました。集中力が切れた状態で勉強をしても頭に入っていない気がしないので、そういう時はすぐに切り上げて違う分野の勉強をします。この勉強法にしてからあまり勉強時間をしんどいと感じないように、長い時間勉強出来るようになりました。

これまではスマートフォンを使うようになってからの悪い点を書きましたが、スマートフォンの使用は決して悪いことばかりではないと思います。スマートフォンを使うことによって、自分と同じ趣味のある友達を探すことも出来るし、最新のニュースを素早く知ることも出来ます。なので、スマートフォンは自分がしっかりルールを決めて適切に使うことが大切だと思いました。

Dさん(13期生)

1. 高校を卒業して

義務教育を終えた今、自分の意思で進学する道を選び、もう私自身が将来のために専門知識を身につけ学び成長し、親に頼らないで自分で判断しなければならないと感じました。

精神的に親から離れ自立に向けて大きな成長の一步を踏み出して、大人としての自覚を持つことが大切だと感じました。高校とは違い、将来を意識して自ら積極的に学びたいと思い大学進学を目指したので自分にとって意味のあるものにしていきたいと考えています。学生だけど大人になるか

からこそ、この大きな変化を自覚し社会人に向けての心構えが必要なので自分自身がこの大学を卒業した時に成長出来たと実感できるような充実した大学生活を送れるように努力したいです。

2. 今後の進路について

教員免許を取得し大学卒業後は幼稚園教諭として社会に貢献していきたいです。

3. 奨学金の使い道について

塾やピアノの習い事の費用で三年間使わせていただきました。ありがとうございました。

4. 後輩へのメッセージ

コロナウイルスが以前に比べて緩和され過ごしやすくなったと思います。

だからこそ、以前できなかったことにチャレンジして、色々なことに目を向けるチャンスだと思います。自分がやりたいこと、したいことに全力で取り組んで後悔ないように、楽しい充実した高校生活を過ごして下さい。高校の三年間は一生に一度なので、自分にとっての「好き」を見つけて今を楽しむことを大切に頑張ってください。今しかできないことを今することで自分にとって満足できる未来になります。自分の最善を尽くしてこれからも頑張ってください。応援しています。

O.K.さん(13期生)

1. 高校を卒業して

一年 ダンス部に所属し、部活動で忙しい日々を過ごしました。

二年 文芸部、ESS 等に転部し、環境を大きく変えました。文芸コンクールに向けての執筆や、文化部発表会での英語劇、修学旅行が印象に残っています。

三年 コーラス大会が一番楽しいイベントでした。コーラス委員の指導力により、私達のクラスは、8クラス中 2 位でした。

10 月からは学校で本格的に共通テスト対策が始まり、一気に受験ムードが強まりました。その後は 1 月に共通テスト、2 月に国立大学二次試験、3 月に私立大学後期試験を受験し、慌ただしい時期を過ごしました。

2. 今後の進路について

大学の医学部医学科に進学します。医学の勉強に加え、データサイエンスの授業にも力を入れて取り組みたいです。

大学生からは、寮暮らしします。

3. 奨学金の使い道について

参考書の購入や学費に使わせていただきました。使い道は主にこの 2 つに絞って使っていました。奨学金の残高は、母と共に確認していました。

4. 後輩へのメッセージ

この度は奨学金受給決定おめでとうございます。私が経済的に不自由なく学校に通い、大学進学まで

漕ぎつけることができたのは、この奨学金のお陰です。受給者の方々の中には、私より遥かに苦しい状況の中に居る方も多いと思います。私などが偉そうに言えることではないのですが、皆さんには、何かの困難に直面しても、決して意気消沈したりせず、目標に向かって進み続けてほしいです。そして、ご家族や出資者の方々への感謝の気持ちを忘れないで下さい。

M.D.さん(13期生)

1. 高校を卒業して、2. 今後の進路について

僕は(中等教育学校で)中学生、高校生として6年間生活してきて、様々な思い出を作ったり、経験をしたりしました。そのおかげで僕は、入学した頃よりも大きく成長し、色々な考え方が変わりました。

ですが唯一、入学前から何も変わっていないことがあります。それは、音楽が大好きだということ、そしてその大好きな音楽に携わることを仕事にしたいという気持ちです。

入学してからもずっと音楽を作り続け、高校生になると本格的に音楽活動に力を注ぎ始め、様々な人たちと出会うことで色々なこと学び、音楽の素晴らしさを再認識しました。卒業する頃にはもっと音楽のことが好きになっていき、僕の「音楽に携わることを仕事にしたい」という気持ちはますます強くなりました。

そして、僕は今、その夢を実現させるため、K 大学という芸術系の大学に進学し、音楽も含めた芸術に関係する様々な分野を勉強しています。入学したばかりではありますが、僕と似たような考えを持つ友達ができたり、僕がやっている分野を専門に研究している大学の先生と仲良くなったりして、とても充実した大学生活を送り始められていると実感しています。

ずっと諦めずに続けてこれているおかげで、小学生の頃から追いかけている夢に、一步一步近づいている気がします。

自分のルーツから得た感性で、様々な音楽を世に送り出し、必ず自分の夢を実現させたいと思っています。

3. 奨学金の使い道について

奨学金は大学の学費にあてるために貯金していました。

4. 後輩へのメッセージ

「好きではないことをして失敗するくらいなら、好きなことをして失敗する方が幸せだ」と思って自分を信じつづけて大学に進学することができました。

なので、後輩の皆さんの中で、「やりたいことがあるけど、どうしよう」と迷っている人がいたら、躊躇せずに思いきって飛び込んでみてください。

S.M.さん(12期生)

1. 高校を卒業して

高校 4 年生になった時、あと 1 年と思いましたが同時に長いと思いました。でも 2 年ぶりに体育

大会があり、思う存分楽しみました。修学旅行は三重県と滋賀県に行きました。ナガシマスパーランドと琵琶湖で友達と楽しい思い出ができました。今年の体育大会では 4 年生で綱引きをしました。自分のクラスは負けただけ、でも楽しかったです。卒業式で卒業証書授与のクラス代表に自分が選ばれるとは思っていませんでしたが、本番では緊張しながらも、無事受け取ることができました。その結果高校生活で一番印象に残ったことが卒業式になりました。4 年間は長く、くじけそうになりましたが、頑張った自分を誇らしく思います。

2. 今後の進路について

高校 4 年間は、朝バイト、夜学校の生活でした。アルバイトを始めたばかりの頃はお客様に怒られることが多かったのですが、だんだん慣れてきて、お客様から感謝されたこともありました。車椅子のお客様を助けたからです。経験した接客業から学んだことを活かせる仕事をするようになりました。これから社会人になりますが、嫌なことに出会ってつらくなったら、この 4 年間の思い出して頑張っていきたいと思います。

3. 奨学金の使い道について

私は、奨学金を毎月の学費の支払いにあてました。また、授業でわからないことがあった時に、参考書や辞書を買うのに使いました。

また、まだまだ日本語でわからないことも多いので、先生に聞くだけでなく、漫画や小説を買って勉強しました。

4. 後輩へのメッセージ

後輩のみなさん、ご入学おめでとうございます。4 月からは、高校生活が始まります。辛いことや楽しいこともあるかもしれませんが、楽しく高校生活を送って下さい。